

# 2021年度 福岡県立大学看護実践教育センター 特定行為研修部門

## 1. 看護実践教育センターの理念

福岡県立大学看護実践教育センターは、人が生活者として生きていくその生き方を支える看護のあり方を追求し地域社会との連携のもとに、多面的な視野に立って人間と健康に関わる問題を解決できる看護実践の中核的な役割を果たす看護職が育つ教育を目指している。

看護実践教育を実施することにより、より高度な看護実践が臨地にて展開されることを目的として設立する。

## 2. 特定行為研修に係る看護師の研修制度の設置

少子高齢化の進展による医療・介護ニーズの増大と医療の高度化・複雑化という社会の変化に対応するために、医療・介護提供体制の改革が進められている。様々な医療ニーズをもつ人々を支え、施設や地域医療に貢献できる看護師の人材育成に寄与することを目的として、特定行為研修に係る看護師の研修制度(以下、「特定行為研修」という)を実施する。

## 3. 特定行為研修の基本理念

看護実践教育センターは本学の教育理念「保健・医療・福祉分野の地域貢献活動の充実」をもとに、多面的な視野に立ち、人間と健康に関わる問題を解決できる看護実践の中核的な役割を果たす看護職の育成を目指している。本学のある筑豊地域は、県内でも高齢化が先立って進展し、在宅医療ニーズが増加している。そのため、在宅での看取りを含めた高い看護実践能力が求められる。そこで研修を受けた看護師が、実践的な理解力、思考力及び判断力かつ高度な専門的知識と技術を発揮でき、チーム医療・多職種協働のためのキーパーソンとしての役割を担い、地域医療に貢献できる看護師の人材育成に寄与することを目的とする。

## 4. 受講者に求めること

- (1) 患者やその家族の QOL 向上のための看護実践能力を有している人
- (2) 看護の実践能力、問題解決能力を高めるための探求心がある人
- (3) チーム医療・多職種協働する上でのコミュニケーション力をもつ人
- (4) 高度な臨床実践能力を発揮できるように自己研鑽を継続できる人

## 5. 受講者に修得を期待すること

- (1) 特定行為を行う上で必要な専門的知識・技術のもとに、対象者やその家族をアセスメントし、必要な対応を判断できる高度な看護実践能力
- (2) チーム医療・多職種協働のキーパーソンとしての役割を発揮する能力

## 6. 特定行為研修の目標

- (1) 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、特定行為を行う上での知識、技術、態度の基礎的能力を習得すること。
- (2) 患者の安心に配慮しつつ、特定行為を安全に実行できる実践能力を習得すること。
- (3) 医師を含む多職種との連携において、各専門職が効果的に医療を担えるための対人関係能力を習得すること。
- (4) 患者のニーズに応え、自らの実践を振り返り、さらに看護実践を標準化する能力を習得すること。

# 令和 3(2021)年度 授業概要

## 共通科目

科目	学ぶべき事項	時間
臨床病態生理学	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	30
臨床推論	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診断のプロセス 2. 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 4. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT/MRI/その他の画像検査 6. 臨床疫学の理論と演習	45
フィジカル アセスメント	身体診察・診断学(演習を含む)を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系 3. 身体診察の年齢による変化    小児/高齢者 4. 状況に応じた身体診察    救急医療/在宅医療	45
臨床薬理学	薬剤学、薬理学を学ぶ 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	45
疾病・臨床病態 概論	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/神経系/運動器系/感覚器系/感染症/その他	30
	状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	10
医療安全学	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習・実習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ ① 医療倫理    ② 医療管理    ③ 医療安全    ④ ケアの質保証 2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(Inter Professional Work(IPW))(他職種との事例検討などの演習を含む)を学ぶ ① チーム医療の理論と演習 ② チーム医療の事例検討 ③ 組織分析の方法と演習 ④ コンサルテーションの方法 ⑤ 多職種協働の課題 3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ① 特定行為関連法規 ② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ① 手順書の位置づけ    ② 手順書の作成演習    ③ 手順書の評価と改良	49
特定行為実践		
合計		254

在宅・慢性期領域パッケージの内容

区分別 科目名	時間	特定行為名	特定行為区分に含まれる特定行為に共通 して学ぶべき事項		特定行為ごとに学ぶべき事項	
			内容	時間	内容	時間
呼吸器 (長期呼 吸療法 に係る もの)関 連	12	気管 カニューレ の交換	1.気管切開に関する局所解剖	4	1.気管カニューレの適応と禁忌	7
			2.気管切開を要する主要疾患の病態生理		2.気管カニューレの構造と選択	
			3.気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント		3.気管カニューレの交換の手技	
			4.気管切開の目的		4.気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	
			5.気管切開の適応と禁忌		5.演習 (オリジナル)	
			6.気管切開に伴うリスク(有害事象とその対策等)		6.OSCE	
			科目試験			1
ろう孔 管理関 連	20	胃ろう カテーテル 若しくは 腸ろう カテーテル 又は 胃ろうボタ ンの交換	1.胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖	10	1.胃ろう及び腸ろうの目的	9
			2.胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理		2.胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌	
			3.胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント		3.胃ろう及び腸ろうに伴うリスク(有害事象とその対策等)	
			4.カテーテル留置と患者の QOL		4.栄養に関する評価	
			5.カテーテルの感染管理		5.胃ろう造設の意思決定ガイドライン	
			6.カテーテル留置に必要なスキネクア		6.胃ろう及び腸ろう造設術の種類	
			科目試験			1
創傷管 理関連	30	褥瘡又は慢 性創傷の治 療における 血流のない 壊死組織の 除去	1.皮膚、皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖	12	1.褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的	17
			2.主要な基礎疾患の管理		2.褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌	
			3.全身・局所のフィジカルアセスメント		3.褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有害事象とその対策等)	
			4.慢性創傷の種類と病態		4.DESING-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	
			5.褥瘡の分類、アセスメント・評価		5.全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等)	
			6.治癒のアセスメントとモニタリング(創傷治癒過程、TIME 理論等)		6.壊死組織と健常組織の境界判断	
			7.リスクアセスメント		7.褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	
			8.褥瘡及び創傷治癒と栄養管理		8.褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法	
			9.褥瘡及び創傷治癒と体圧分散		9.演習 (オリジナル)	
			10.褥瘡及び創傷治癒と排泄管理		10.OSCE	
			11.DESIGN-R に基づいた治療指針			
			12.褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム			
			13.感染のアセスメント			
			14.褥瘡の治癒のステージ別局所療法			
			15.下肢創傷のアセスメント			
			16.下肢創傷の病態別治療			
			17.創部哆開創のアセスメントと治療			
			科目試験			1

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	12	脱水症状に対する輸液による補正	1.循環動態に関する局所解剖 2.循環動態に関する主要症候 3.脱水や低栄養状態に関する主要症候 4.輸液療法の目的と種類 5.病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 6.輸液時に必要な検査 7.輸液療法の計画	6	1.脱水症状に関する局所解剖 2.脱水症状の原因と病態生理 3.脱水症状に関するフィジカルアセスメント 4.脱水症状に関する検査 5.脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理 6.脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法 7.脱水症状に対する輸液による補正の副作用 8.脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9.脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等)	5
			科目試験		1	
					合計	74

区分別科目の内容

区分別科目名	時間	特定行為名	特定行為区分に含まれる特定行為に共通して学ぶべき事項		特定行為ごとに学ぶべき事項	
			内容	時間	内容	時間
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	17.5	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	1.循環動態に関する局所解剖 2.循環動態に関する主要症候 3.脱水や低栄養状態に関する主要症候 4.輸液療法の目的と種類 5.病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 6.輸液時に必要な検査 7.輸液療法の計画	6	1.低栄養状態に関する局所解剖 2.低栄養状態の原因と病態生理 3.低栄養状態に関するフィジカルアセスメント 4.低栄養状態に関する検査 5.高カロリー輸液の種類と臨床薬理 6.高カロリー輸液の適応と使用方法 7.高カロリー輸液の副作用と評価 8.高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9.低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク(有害事象とその対策等) 10.高カロリー輸液に関する栄養学	5
		脱水症状に対する輸液による補正	1.脱水症状に関する局所解剖 2.脱水症状の原因と病態生理 3.脱水症状に関するフィジカルアセスメント 4.脱水症状に関する検査 5.脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理 6.脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法 7.脱水症状に対する輸液による補正の副作用 8.脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9.脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等)		5	
	科目試験					
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	17	インスリンの投与量の調整	1.糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖 2.糖尿病とインスリン療法に関する病態生理 3.糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント 4.インスリン療法の目的 5.糖尿病とインスリン療法に関する検査(インスリン療法の導入基準を含む) 6.インスリン製剤の種類と臨床薬理 7.各種インスリン製剤の適応と使用方法 8.各種インスリン製剤の副作用	6	1.病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 2.病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク(有害事象とその対策等) 3.外来でのインスリン療法と入院の適応 4.インスリン療法に関する患者への説明	10
		科目試験				
合計						34.5